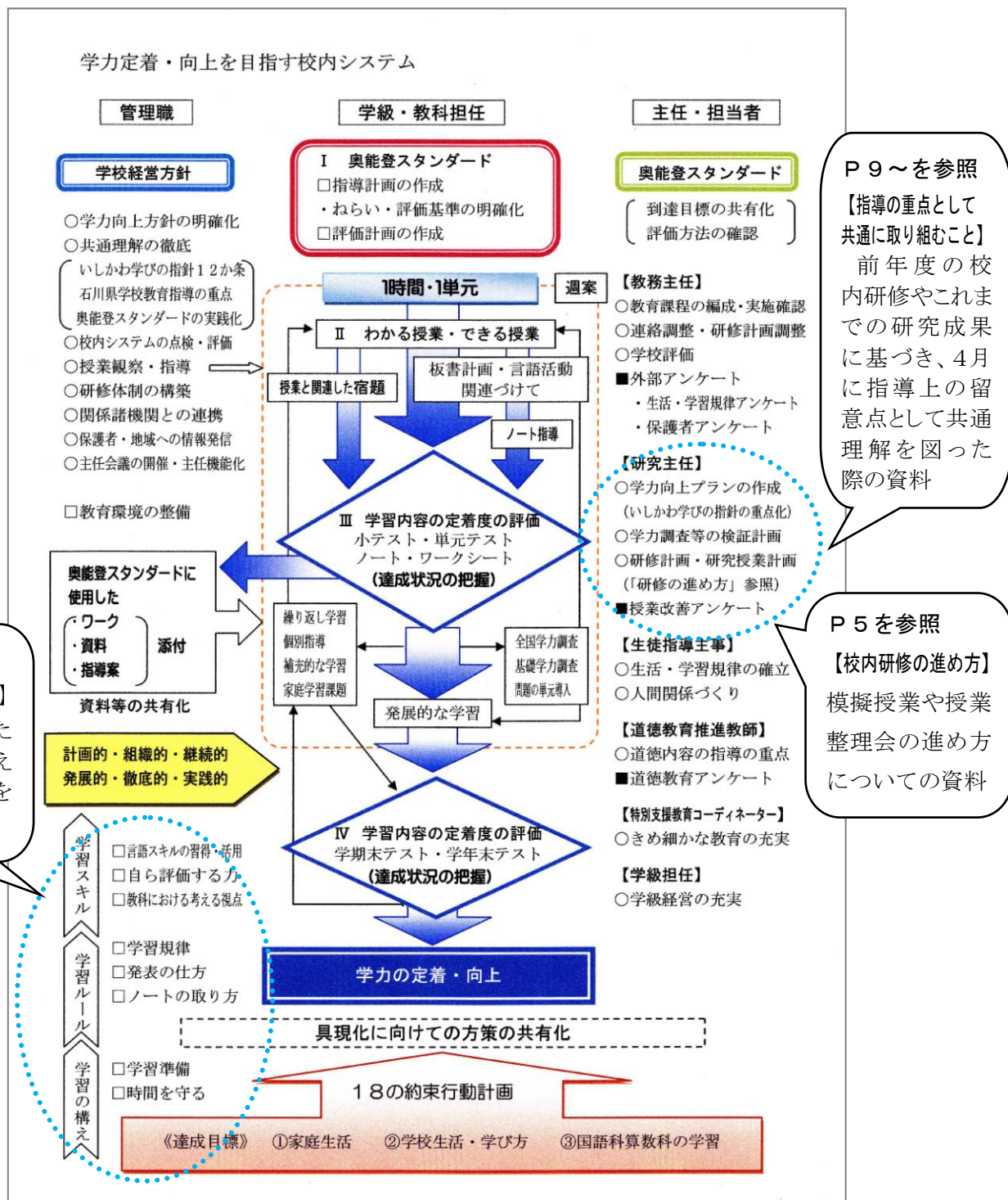


学力定着・向上を目指す校内システムは？

指導改善を進める体制づくり

本校の校内システムは、下記のような体制をとっている。これらのシステムに基づいて、具体的な実践に移すために、具体化・具現化・可視化を図っている。具体化・具現化・可視化することで、教職員の共通理解と目的や方法が共有化され、学びの連続性や組織的な授業改善につながるものと考えている。（具体化した一部は、下記の吹き出しのページに載せてあります。）



では、校内研修はどうなっているの？

指導改善を進める体制づくり

毎週水曜日を校内研修の日とし、研究主任による年間計画に基づいて研修を積み重ねている。

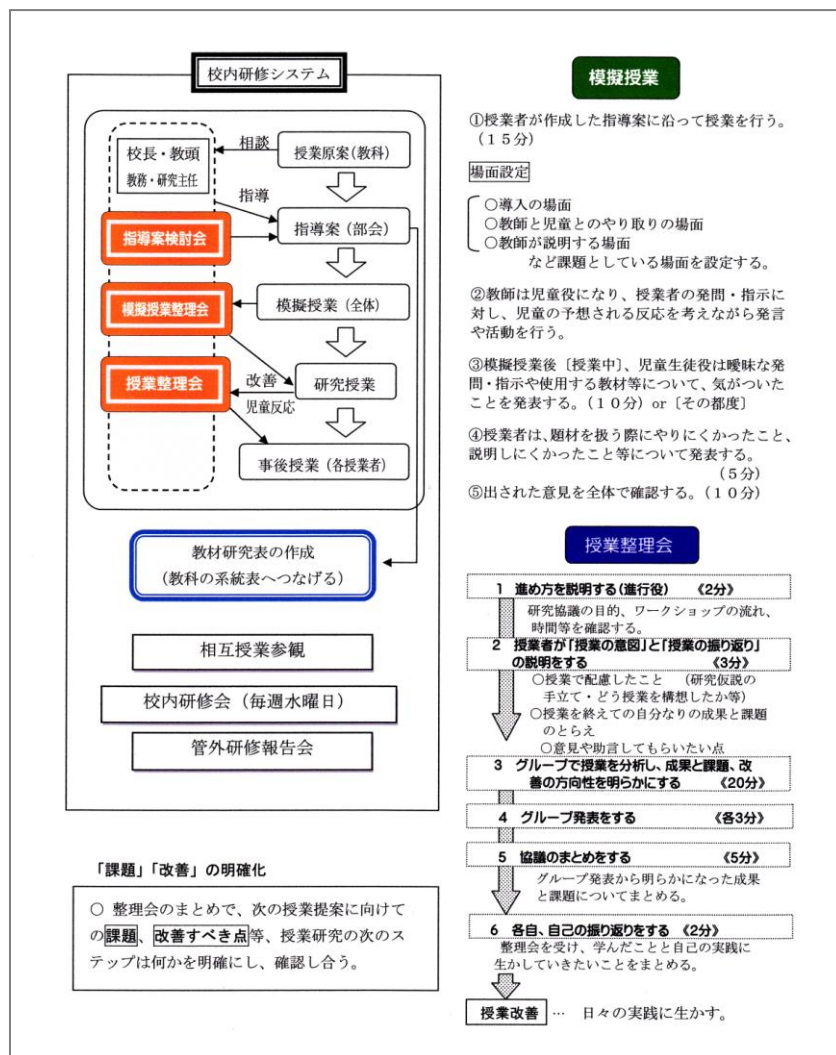
研究授業は、模擬授業をはじめワークショップ型の授業整理会を実施し、視点を明確しながら課題や改善すべき点を明らかにして、日々の授業改善に生かしている。

〔ワークシートの一例〕

よかったこと	導入	展開	終末
改善点			

赤の付箋 … 児童について

青の付箋 … 教師について



《本校の研究授業の流れ》 計画的・組織的・継続的・発展的・徹底的・実践的を意識し今後の授業へ生かす取組み

指導案検討会



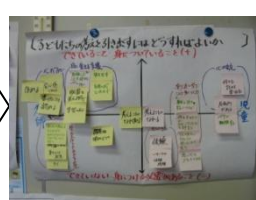
模擬授業



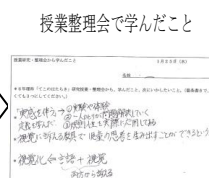
研究授業



授業整理会



授業改善



模擬授業を実施し、授業構成や発問、板書内容等について、検討を行う。

ビデオ撮影・板書の写真教師の発問、児童の考えを記録する。

KJ法を取り入れ、協議の視点を明確にして授業改善点を明らかにする。

協議後、全員が授業整理会で学んだことと題し、用紙に記入し記録を保存。この記録は授業構成を考える際の財産となっている。

P9【活用する力の育成を意図した本時の展開】を参照

昨年度(平成23年度)、KJ法による授業整理会で改善点や授業構成のキーワードとして出された意見を今年度の学習指導に生かしています。(継続的・発展的)

基礎的・基本的な学力定着のために

学力・学習を支える基盤づくり

1 スキルタイムの取組（13：50～14：00）

前学年までに学習した基礎的・基本的な学力（「書く力」「語彙力」「計算力」等）の向上を図る。

曜日	月	火	水	木	金
内容	視写タイム	言葉タイム	計算タイム	学級タイム	漢字タイム
ねらい	早く視写する力の伸長	文法や語彙の使い方等の力の伸長	基礎的な計算力（速さ・正確さ）の伸長	学級の実態に応じ不足している基礎的・基本的な学力の伸長	漢字を書く・読む力の伸長
主な取組例	教材「うつしまるくん」を使用して力を伸ばす。	①教材「ことばのきまり」を使用して力を伸ばす。 ②辞書のひきかたの指導、練習 ③ローマ字の学習	前学年までの復習 ①過去のスキルタイムプリントの利用 「〇問テスト」 ②「すず漢字コンテスト」の過去問題	該当学年等の学習 ①都道府県名を覚える（県庁所在地も） ②石川県の市町を覚える ③詩の暗唱	①漢字の学習・練習 ②誤字が目立つ漢字の指導 ③すず漢字コンテストの過去問題

※11月は、すず漢字博士コンテスト、12月は、すず漢字博士コンテストの練習問題に取り組み月間とする。

2 「活用力タイム」の取組（13：50～14：10）

毎月23日（石川読書の日）を含む週のスキルタイムを20分間にし、活用力を重視した学習を行う。

				23日	
4 5 6	国語 「活用力アップワーク」	国語 「活用力アップワーク」	算数 「活用力アップワーク」	学校読書の日 ※ボランティアの方々 教師による読み聞かせ	算数 「活用力アップワーク」
1 2 3	国語 「こくごのがくしゅう」 「国語ドリル」	国語 「こくごのがくしゅう」 「国語ドリル」	算数 「さんすうの力」	※感想文を書く ※班長や学年代表 による図書紹介	算数 「さんすうの力」

※ 上記の取組を基本とするが、児童の実態に応じて学習内容を工夫する。

（例）筋道をたてた文の書き方の学習 事実（根拠）と理由（判断）、考え（意見）を踏まえた話し方の学習

＜実施上の留意事項＞

- ・採点も、時間内で終わるよう、学習量や時間を工夫する。
- ・授業中の児童の書く様子や、すず計算博士・漢字博士コンテストの結果及び過程（伸び）で検証する。

3 家庭学習の取組

- ・児童と家庭向けに「**学習のてびき**」を発行し、児童に家庭学習をするときの留意点、「自学」への取組方等を指導する。
- ・保護者に対して、学習習慣の意義を啓発し、支援してもらう。（資料4参照）

4 生活習慣の取組

- ・よりよい生活習慣の確立、食育の観点から、「早ね、早おき、朝ごはん」の取組を継続する。
- ・「バランスアップカード」で児童の実態を把握し、実態に応じた保健指導・食育指導を行う。
- ・「早ね、早起き」（睡眠時間の確保）に重点を置いた指導をする。
- ・**教育行動計画書「家庭生活」の取組**を通して、生活習慣の改善を図る。（資料3参照）

5 読書への取組

- （1）朝読書 月～金（8：10～8：20）・・集会等がない日に実施
- （2）学校読書の日（毎月23日）の取組（活用力タイム23日欄参照）

6 補充学習の取組

原則、毎週火曜の放課後、補充学習を実施する。学習内容は、学級担任が決める。
級外も、児童数が多いクラスを中心に支援に入る。

7 学びの姿勢づくり（学習ルールの確立）

- ①チャイムで、座席につくように指導を継続する。
- ②ノートなどに、書く機会を確保する。（板書を写す・考えや気づきを書く）

8. 学校環境・学習環境の工夫・・・指導に役立つもの

今年度の指導の重点は？

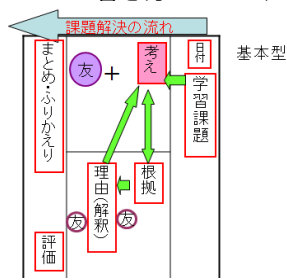
活用力を高める授業づくり

「自分の考えを 筋道立てて説明できる子の育成」…〔授業で共通にして取り組むこと〕

ア 三角ロジックを意識する

- ・教室に三角ロジック〔三角形で伝えよう〕を掲示する。(前面)
話し方を指導する。

(ノートの書き方について)



「それは～を見て下さい」

考えのもと (事実)

- ・教科書の文・さし絵
- ・資料 (図・グラフ等)
- ・公式・実験や観察結果

あなたの考え 「わたしは～だと思います。」

考え

「その理由は…」
「～ということは○○
ということです。」

理由

事実から

どうしてそう考えたか

- ・自分の体験や知っていること
既習した学習とを結びつける

イ 付けたい力をつけるために

どのようなまとめをするかをまず考えて、課題を考える。(教科書のリード文や大切を参考に)

ウ 学習用語を使う (教室に掲示するなど工夫を)

〔物語文の読み取りに必要な用語〕

「登場人物」「中心人物」「対人物」「山場 (クライマックス)」「出来事・事件」「時」「場所」「語り手」「あらすじ」「題名」「作者」「かぎ」「訳者」「感想」「たとえ」「場面」「地の文」「主語」「述語」「会話文」「事実」「意見」「感想」「人物像」「朗読」「情景」「心情」「視点」

〔説明的文章の読み取りに必要な用語〕

「題名」「形式段落」「意味段落」「要点」「問いと答え」「文章構成図」「事例 (具体・抽象)」「要旨」「要約」「キーワード」「中心文」「主語」「述語」「事実」「意見」「感想」「意図」「対話」「置き換え」

〔詩の読み取りに必要な用語〕

「題名」「リズム」「中心語」「中心文」「語り手」「技法と効果」「連」

〔書く時に必要な用語〕

「主語」「述語」「句読点」「推敲」「構想」「取材」「構成」「記述」「事実と意見・感想」「記録」「引用」「具体例」「わり付け」「文章の終わりは です ます に」「見出し」

〔使用したい言葉〕

「まず」「つぎに」「さいごに」「つまり」「このように」「私は (ぼくは)」「たとえば」「だから」「なぜなら」「それに対して」「一方」「しかし」「だが」「でも」「けれども」「要するに」